太陽誘電株式会社
2024 年3月期第3四半期決算説明会 質疑応答要旨
（2024 年2月7日開催）

Q1. 第3四半期の実績と 11 月時点の想定との差異は。期初と現在とで通期業績予想はどのように変化したのか。また、第4四半期の前四半期に対する営業利益増減要因の前提は。

A1. 第3四半期は情報機器、通信機器向けの好調により売上が計画をやや上回った。営業利益については、固定費の抑制や円安の進行という増益要因があったものの、在庫の減少や中国系スマートフォン向けの売上増加などに伴う値下がり影響が利益を押し下げ、計画を下回った。

通期業績予想は、操業度効果として期初には前期比 242 億円の増益を見込んでいたが、情報インフラ・産業機器市場の需要回復が遅れていることなどから3億円の増益へと見直した。また、当初は 211 億円の減益要因と見ていた販売価格影響は、ミックスの変化などに伴い 285 億円の減益影響へと修正した。一方、固定費の増加は 27 億円と、期初想定の 171 億円から抑制する方向に見直した。また、為替影響は期初の前提を1米ドル 130 円としたことで 50 億円の減益要因として想定していたが、為替が円安に推移しているため 69 億円の増益要因になると見込んでいる。

第3四半期から第4四半期への主な減益要因は、売上高の減少、固定費の増加、為替影響。売上高は民生機器、通信機器向けなどを中心に約8%の減少を見込んでいる。販売価格影響については、第3四半期並みの値下がりを想定している。固定費は減価償却費を含めて 15 億円増加する見込み。第4四半期の為替前提は 145 円としており、前四半期比約4円の円高なので 8億円ほど利益を押し下げる想定。一方、第3四半期は在庫が 35 億円減少したが、第4四半期は 50 億円程度積み増す計画であるため、増益要因となる。

Q2. 第3四半期と今後の MLCC の稼働率は。来期の需要次第では3月に稼働率を上昇させる可能性もあるかと思うが、期待できる用途分野は。

A2. 第3四半期の MLCC の稼働率は 65-70%。生産負荷が低い中国系スマートフォン向けなどの小型品の需要増により、11 月時点の想定である 70%前後をやや下回った。第4四半期は 70-75%の前提だが、来期の需要見通し次第で稼働を上げて在庫をさらに積み増す可能性がある。需要が堅調な自動車向けの他、情報機器、情報インフラ・産業機器向けなど大型品の需要の立ち上がりに期待している。

Q3. 第4四半期に純損失7億円を見込んでいるが、特殊な費用が発生するのか。その場合、来期への影響は。

A3. 10 億円の特別損失を計画に織り込んでいる。令和6年能登半島地震によって新潟県の子会社で修繕費や棚卸資産廃棄損などの計上を見込んでいるが、来期への影響はない。地震による稼働への影響はなく、通常の事業活動を継続している。

Q4. 第3四半期の製品別の在庫増減は。また、35 億円在庫を減らした第3四半期に対して第4四半期は 50 億円在庫を積むことから、操業度効果による利益の押し上げが大きくなるはずだが、なぜ前四半期から減益になるのか。

A4. 第3四半期の 35 億円の在庫減の内、半分以上が MLCC。また、売上高が想定を上回ったインダクタと複合デバイスの在庫も減少した。
第4四半期は在庫増による増益効果はあるものの、売上高の減少、固定費の増加、為替影響により減益の想定。

Q5. 需要がアップサイクルに入ったと考えられるが、来期の見通しや製品戦略は。

A5. 需要は徐々に上向いていくと見ている。市場の在庫調整は一巡し、半導体不足も解消してきている。加えて、機器の高性能化や電源効率化、電動化も進んでいくことから、電子部品の需要は段階的に拡大すると予想している。自動車、情報インフラ・産業機器向けの中でも特にハイエンド部品の需要が拡大すると見ているので、ここのシェアを伸ばしていきたい。

Q6. 製品区分「その他」の受注高と受注残高が増加しているが、その背景と今後の見通しは。

A6. 導電性高分子ハイブリッドアルミニウム電解コンデンサの受注が増加している。今後成長していく製品として注力している。

Q7. 来期の設備投資や稼働の考え方は。

A7. 設備投資はこれまで通り中期経営計画 2025 に沿って進めていく。MLCC を中心に、今後需要が拡大する大型のハイエンド品の生産能力を増強させていく。また、現在受注は増加傾向にあり、BB レシオも上昇していることから、来期の稼働率は今期よりも高くなる見込み。

Q8. 来期の販売価格の見通しは。

A8. 通信機器向けは四半期での契約が多いため価格変動が発生しやすいものの、大きく値下がりしていくような状況ではない。自動車、情報インフラ・産業機器向けは契約期間が長く価格変動のタイミングも少ないため、価格は比較的安定した状態で推移する見込み。

Q9. AI サーバーやエッジ AI の恩恵は。

A9. AI サーバーによる影響はまだ小規模だが、大容量品や高信頼性品が求められ、員数も増えていくことから期待したい市場。AI スマートフォンでは、今後の AI 用途の拡大や製品設計高度化により将来的な需要増に繋がると期待したい。

※当資料に記載されている、当社（太陽誘電株式会社、および当社グループ）に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことからも、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。